

ホクレン営農支援情報

(2019年9月号)

●ホクレンサイエンスアカデミーを開催 《研究企画課》

農業総合研究所で初の「消費者」向けのイベントである「ホクレンサイエンスアカデミー」を、8月8日に札幌市東区の研究所施設にて開催しました。

「日常生活に身近な科学を体験する」をコンセプトに、家庭でも再現でき、夏休みの自由研究に活用できる4つの実験体験を企画しました。今年は初めての試みのため、研究所周辺住民などに限定して開催案内を行いました。当日は風雨の強いあいにくの天候でしたが、4歳から12歳までのお子様連れ15組計43名の方にご来場いただき、来場者からは「楽しかった」「他の実験もしてみたい」などの声をいただきました。



●JA 伊達市管内で RTK の精度調査を実施しました 《苫小牧支所 営農支援室》

トラクターの自動操舵で使われる RTK-GNSS 方式の補正信号は、一般的に基地局から半径 20 km以内が利用エリアといわれていますが、ホクレンでは周囲に障害物がなければ 40~50 kmの地点でも精度に問題がないことを確認しています(アグリポート 18号参照)。

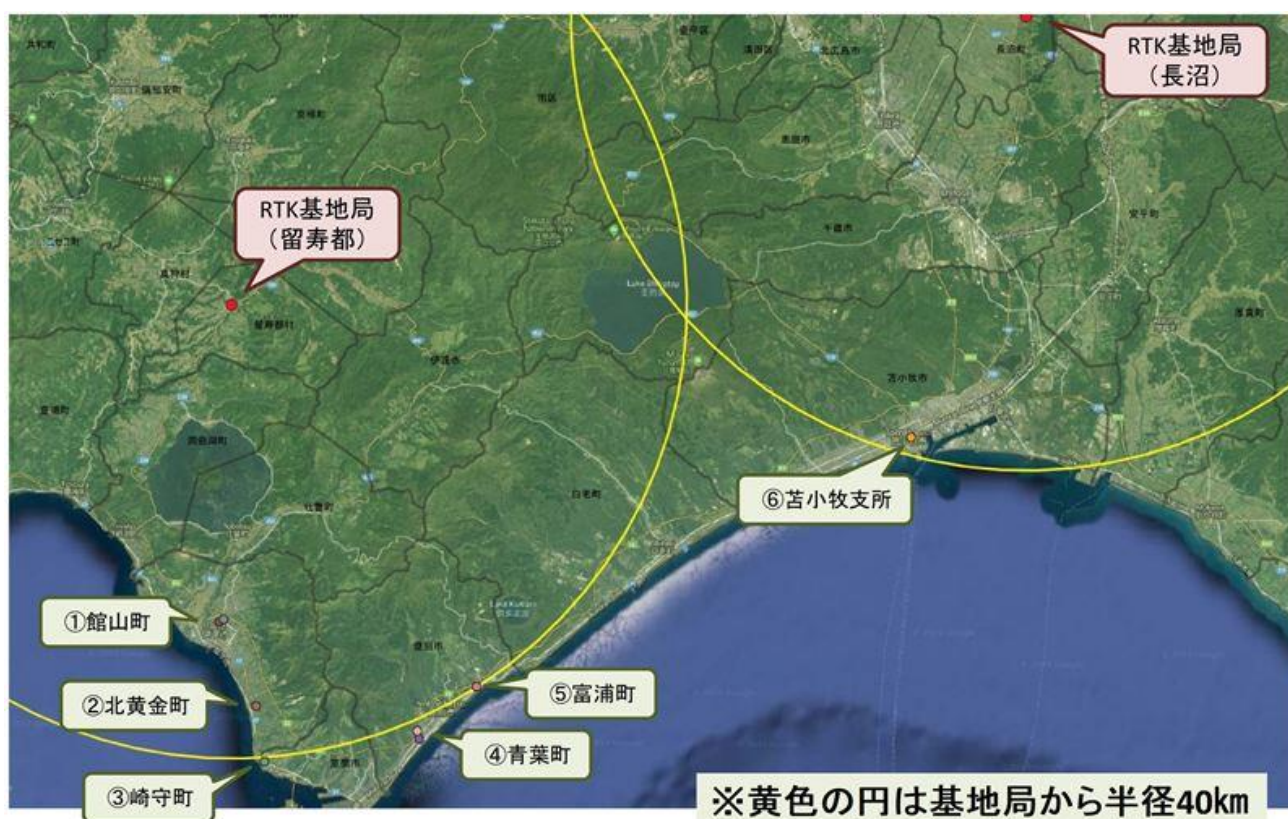
苫小牧支所では、7月25日にJA伊達市管内5カ所において、JAようてい留寿都基地局か

らの RTK の精度を調査しました。

その結果、40km 程度離れた地点でも RTK フィックス時間および平均座標からの精度に問題がないことを確認しました。さらに、ホクレン苫小牧支所（苫小牧市若草町）においても長沼基地局（距離 38.3km）からの精度を測定したところ問題はありませんでした。なお、同日、高圧電線の鉄塔や防風林などの障害物が RTK に及ぼす影響についても調査を行いましたが、これらの付近では精度が低下する結果となりました。



鉄塔脇での RTK 精度調査の様子
（乗用車に RTK 受信機を設置して調査）



基地局の位置と今回の調査地点

● JA おとふけ・JA 木野で女性部限定の GPS 自動操舵体験試乗会を開催

《帯広支所 営農支援室》

帯広支所営農支援室は、JA おとふけ・JA 木野と農業機械メーカーとともに、8月9日に「GPS 自動操舵体験試乗会」を開催しました。このイベントは女性部を対象としており、①自動操舵トラクターについて学び女性ができる作業の選択肢を増やすこと、②女性同士のネットワークを広げること、を目的としたものです。

当日はあいにくの天候でしたが、約 40 名の女性部員が参加。会場となった JA 木野穀類乾燥調製貯蔵施設の駐車場で自動操舵トラクターの試乗を行いました。試乗の順番を待つ間は、農機メーカーによる機器の説明や、アシストスーツの試着体験を実施しました。参加者からは「普段トラクターを運転しないが、これならできそうと思った。また運転してみたい」「今回の試乗会はトラクターに親しむための最初のステップとして非常に良かった。次はもっと詳しい内容を知りたい」などの感想がありました。

今回のイベントをきっかけに、トラクター操作ができる女性が増えることで、労働力不足解消の一助になることが期待されています。



雨天のため、圃場ではなく駐車場で試乗



農機メーカーによるガイダンスの説明



アシストスーツの試着ブースも好評



ランチ会で女性同士のつながりを深めた

● るもいフェアをくるるの杜で開催 《留萌支所 営農支援室》

留萌支所管内 3 農協（JA 南るもい、JA 苫前町、JA オロロン）の協力のもと、7 月 20 日にくるるの杜で「るもいフェア」を開催しました。今年で 8 年連続となりました。

フェアでは、果実（苫前町産メロン、増毛町産さくらんぼ）、野菜（羽幌町産新じゃが、遠別町産ピーマン、小平町・苫前町産ミニトマトなど）の対面販売を実施したほか、農村レストランでは留萌管内産米を提供しました。

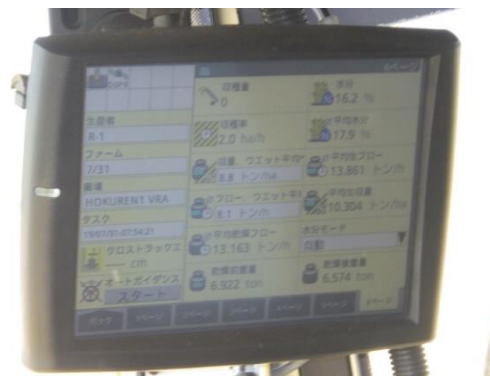
留萌管内には農産物のイメージがないお客様も見受けられましたが、知る人ぞ知る留萌管内産農産物です。食材の宝庫であることが PR できました。



● 秋播小麦試験圃場で収量センサー付きコンバインを用いて収穫作業！

《訓子府実証農場 農産技術課》

訓子府実証農場では 7 月 31 日に秋播小麦試験圃場（2.4ha）で、きたみらい麦作振興会、きたみらい農協と連携のうえ、収量センサー付きコンバインを使い収穫作業を行いました。収量センサーを利用すると、圃場内の地点別の収量を把握することができるよう



収量センサーディスプレイ
（リアルタイムで収量を計測できる）

になります。

試験圃場の収量は粗原重量で約 1t/10a でしたが、地点ごとの収量にわずかにバラツキが見られました。この圃場では可変施肥を行っており、今後、収量センサーで得られたデータと可変施肥のデータなどの関連を解析し、講習会などでフィードバックしていきたいと思えます。



収穫作業の様子

発行：ホクレン農業総合研究所 営農支援センター 営農支援推進課

Tel. 011-788-5467 E-mail. einousiensuisin@hokuren.jp